

【運営方針2】実践教育の充実

【評価基準】A:大きく上回る B:上回る C:概ね達成 D:やや下回る E:下回る

【基本方向】多様な進路に対応した教育体制による実践に必要な技術・知識の習得強化						
評価項目	評価目標	具体的方策	取組状況	自己評価	次年度に向けた改善策	
1	少人数制による多様な進路に対応したきめ細やかな学習支援の充実	(1)進路決定率:100% (2)就職率:60%	① 少人数制によるきめ細やかな学習支援【継続】 専攻学科に担任を配置し、各学科において少人数でしっかり学べる教育体制とし、学生個々の習熟度に応じたきめ細やかな指導を行い、基礎から実践までの知識・技術の習得を図る。  ② 多様な進路に対応した指導【継続】 就農、雇用就農、就職、進学への4つの進路指導コースを設定し、進路の実現に向けて、きめ細かく支援する。 具体的には、農業系学科では、就農志望者に対して就農計画の作成等を指導するとともに地元農業技術普及課との連携により、スムーズな就農開始を指導する。就職志望者に対しては農業法人や農業・食品関連企業を招いた就職相談会を開催し、雇用就農や企業就職に向けた雇用マッチング支援を行う。 林業経営学科では、林業・木材関連団体が開催する合同就職説明会への参加とインターンシップを実施し、進路決定を支援する。 コロナ禍により、求人が減少する可能性のあることから、年度当初より農業法人や農林業関係企業へ求人を働きかけ、早期の進路決定を目指す。	・各学科2～15名の少人数制で講義・実習を行い、学生の習熟度に応じて基礎的知識や実践的技術の習得を図る濃密な指導を実施した。 ・進路選択にあたっては、学生との二者面談、学生・保護者との三者面談を随時、実施し、認識を共有しながら、進路決定に向けた具体的な対応策を支援した。 ・毎月の指導職員会議において、個々の学生の就職活動状況を情報共有し、指導にあたった。 ・専門カウンセラーによるキャリアカウンセリング(進路決定に関する相談)や就職に関する講義等を行い、学生の早期の進路決定を支援した。  * コロナ禍により県外における就職活動が困難であったが、1月末までに2学年全員の100%の進路決定率を達成することができたことから、「B」評価とする。	C (1)進路決定率…B(100%) (2)就職率…C(57%)	・今後とも少人数制による講義、実習を実施し、学生の習熟度に応じて基礎的知識や実践的技術の習得を図る。 ・引き続き、担任は学生との二者面談や保護者を交えた三者面談を行い、学習や寮生活等の悩みを把握し、的確な進路決定に努める。また、学生には必要に応じて専門家によるキャリアカウンセリングを勧め、進路決定を支援する。 ・来年度は、コロナ禍の影響がなくなり、求人が増加する可能性のあることから、年度当初より農業法人や農林業関連企業等へ求人を働きかけ、就職活動に遅れが生じないよう、早期の進路決定を目指す。  ・学生が適切に進路を決定できるよう、農林大卒業生(就農者・農業法人就職者、就職者、進学者)を講師に迎え、自らの体験談を話してもらった「進路ガイド」を開催する。さらに、「農業法人等との就職相談会」の開催や「森林の仕事ガイド」への参加とインターンシップの実施により、学生と農業法人、林業事業者等とのマッチングを図る。 ・就職率を向上させるため、「山形県地域官農人協議会」等と連携し、年度当初から農業法人へ求人票提出を働きかけるとともに、先進農林業者等体験学習やインターンシップ等により農業法人への就職のイメージを醸成する。
2	販売力の養成と強化	(1)販売実習等の実施回数:4回	① 農大市場等における販売力の充実【拡充】 学生全員が役割を持ち農大市場に参加するため、開催マニュアルを整備し、各役割分担を明確にするとともに、農大市場委員会を中心とした学生の自主的な運営を目指す。また、校内の農大市場だけでなく、新庄市内の販売所等でも販売し、新たな販売先の開拓を図る。新商品の開発、新規販売ルートの開拓等、さらなる販売力強化のため、「マーケティング実践(2学年必修)40時間」を開講する。その中で、パッケージデザイン、ネット販売等を学ぶ。その講師として、東北芸術工科大学職員を検討するとともに、東北芸術工科大学との連携の可能性を探る。  ・農林大の米や加工品(ジュース・ジャム・ケチャップ)を詰め合わせた農林大ギフトセットを12月に、農大市場委員が中心となって50セットを販売した。今年度はこれまで販売していた県関係機関ではなく、最上地域の公的機関や新庄駅内の「最上物産館」へ販売し、地元へのアピールに務めた。  ・学生の販売意欲の向上やそのための基礎的知識の習得を図るため、「マーケティング実践(2学年必修)40時間」の中で、外部講師により商品開発やPOPデザイン等を学んだ。東北芸術工科大学との連携を図るため、学生間の連携を依頼した。  * コロナ禍により、販売実習等の活動が制限される中、コロナ対策を講じながら、学生全員で農大市場を3回、農林水産祭への出店し、目標の4回を達成し、学生の販売意欲が高まったことから、「C」評価とする。	C	・農大市場(4回)をはじめとした様々な販売実習を通じて、農作物や農産加工品、卒論成果品のアンケート調査等を実施し、農産物生産や商品改善に活かしていく。 ・「マーケティング実践(2学年必修)40時間」の中で、商品開発やPOP作成の他、パッケージデザイン、販売管理、販売データの収集・分析等を学ぶ。 ・東北芸術工科大学学生との連携により、農大市場等のイベントでの企画を検討する。	
3	企画・構想力、プレゼンテーション能力の充実	(1)全国レベルでのプロジェクト発表会・意見発表会等での上位入賞:1件以上	① 全国規模の発表会等への参加【拡充】 学習成果の発表の場としての東日本及び全国農業大学校等プロジェクト発表会・意見発表会、ヤンマー学生懸賞作文の部、毎日農業記録賞等へ応募する際、校内での指導をさらに強化し上位入賞を目指す。指導体制を強化するため、各担任、副校長、教務担当等をメンバーとしたプロジェクトチームを結成し、指導にあたる。 パソコンやワード、エクセル、パワーポイントに不慣れな学生に対して、集中的に指導するための時間を設定し、パソコンやプレゼンテーションの基礎を習得させる。  ・卒業論文には2学年全員が取組み、東日本農業大学校等プロジェクト発表会へ校内審査会(12月)で選ばれた代表学生3名が出場した。また、意見発表の部には、8月の校内発表会を経て、学生2名が出場した。その結果、プロジェクト発表の部で「優秀賞(2位)」を学生2名が、意見発表の部では、「優秀賞(2位)」を学生1名が受賞し、全国大会へ出場した。全国大会は2月に開催され、プロジェクト発表の部では「特別賞(3位)」を、意見発表の部では「特別賞(2位)」を獲得した。意見発表の部での「特別賞」以上の受賞は、9年ぶりとなった。 ・森林・林業技術交流発表会(東北森林管理局管内)において、林業経営学科の学生が、「日本森林林業振興会会長賞」を受賞した。 ・毎日新聞記録賞に1名が応募し、一般の部で入選を果たした。 ・ヤンマー学生懸賞「作文の部」には、1学年全員と2学年の希望者の計63名が応募し、銀賞(1件)を受賞した。銀賞は全国で2件のみであり、10年ぶりの快挙となった。 ・1学年の学生全員に対して、ワード、エクセル、パワーポイントに関する講義を行い、パソコンやプレゼンテーションに関する基礎を習得させた。  * 全国プロジェクト発表会 特別賞(2件)、毎日農業記録賞 入選(1件)、ヤンマー学生懸賞作文 銀賞(1件)の上位入賞、合計4件を受賞し、目標の1件以上を大きく上回ったことから、「A」評価とする。	A	・卒業論文の実施にあたっては、まずは課題設定が重要であることから、「卒論論文計画発表会」にて、学生・教職員間で十分な検討を行う。なお、卒業研究の実施に際しては、関係機関、生産者、流通関係者等の協力・助言を受けながら取り組む。 ・各種プロジェクト発表会・意見発表会等への指導体制を強化するため、各担任、副校長、教務学生担当等をメンバーとしたプロジェクトチームを来年度も引き続き結成し、指導する。意見発表については、今年度より行った外部講師による作文指導が効果的であったことから、来年度も引き続き、実施する。	

自己評価	自己評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>コロナ禍により学生の就職活動への悪影響が危惧されたが、結果的には大きな影響はなく、2学年全員の進路を決定することができた。就職率については目標の60%を概ね達成することができた。</li> <li>コロナ禍により販売活動等が制約(試食販売や試食による求評等の中止)を受ける中、コロナ対策(ソーシャルディスタンスの確保、パーティション設置、アルコール消毒および手袋着用等)を実施し、安全・安心な農大市場を開催することができた。</li> <li>各種成果発表会等についてプロジェクトチームを中心に指導を強化した結果、全国農林大学校等プロジェクト発表会等において、特別賞等、合計4件を受賞し、目標を大きく上回る成果を挙げることができた。</li> </ul>	B

学校関係者評価(意見・要望等)→現在の取組状況・次年度の改善策	学校関係者評価(意見)	評価
<ul style="list-style-type: none"> <li>東北芸術工科大学等との連携で農業分野にもデザインのセンスを取り入れることが重要と考えている。がんばって取り組んで欲しい。</li> <li>→今年度もPOPやパッケージデザインについて、学習しているが、卒論等を通じて、一層のデザインに取組んでいきたい。</li> <li>・就職率は11名とのことだが、定着率はどのようになっているのか。</li> <li>→就職者11名については、担当普及課に就農情報を提供して地元定着の支援を依頼するなど、全員が定着するよう卒業後も継続して、各機関が連携して支援していく。なお、定着率については、農業経営・所得向上推進課が調査しており、令和3年度に調査した新規学卒者の過去5年間の定着率は県全体で82%となっている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>卒業論文プロジェクト発表、意見発表などで成果が上がっていることを評価する。</li> <li>卒業論文発表会に参加して、研究としてのレベルは様々な真剣に取組んでいることが伺えた。就職する学生には、チャレンジするような楽しい取組みをして欲しい。</li> <li>進路指導についてはきめ細やかな対応で学生が安心して進路決定できていると思います。特に「農林大卒業生による進路ガイド」は有効であると思います。また、合同就職相談会に1学年全員が参加したことも良いことだと思います。</li> <li>農大市場やkitokitoマルシェで実際販売することによる学びは大きい経験だと思います。これからの農業は販売力で差がつくと言っても過言ではないと思います。</li> <li>各種成果発表会の大きな成果は本当に素晴らしいです。！！</li> <li>コロナ禍になり3年ほど経ちますが、まだまだイベント等の実施のやり方について大変な部分もあるかと思いますが、それに負けず頑張っている学生たちには拍手を送ります！！農大市場に行った時、マスクをしているにも関わらず、丁寧な接客・笑顔には感動しました。！！</li> <li>毎年、好成绩を取っており、学生はもちろん先生方の努力ですね。！</li> <li>記事を読むと農林大での学びが生かされていると感じた。実習の必要性が多いにあると思う。</li> </ul>	B